



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

掲示板法話

仏縁に遇うことが

「人間らしい人生」の根本です

我々の地方にも再三雪が降る、寒い冬が続いています。豪雪地帯での雪下ろし事故の報道を見るたびに胸が痛みます。でも山形県で地元の高校生がボランティアで高齢者のお宅の雪下ろしを手伝っているという話を聞きますと、ほっと心温まる思いがします。厳しい気候風土の中でも、相互に助け合ってきたご縁を大切にしたい。この頃しきりに感じさせられることです。

ある日のテレビ報道で、「ゼロ葬」という言葉を聞いて驚きました。ゼロ葬とは、葬儀をしないだけでなく、遺骨も受け取らず廃棄する、ということのようです。親戚、知人に家族の逝去を特に伝えず、生前故人がお世話になった感謝やお礼の言葉も一切ないこととなります。自分たち夫婦の死後にゼロ葬を主張し、墓じまいを提案する高齢の女性は、「過去に両家の両親四人の葬儀、法事を勤めたが、何ら意味を見出せなかった」と言い張りします。「そうは言っても世間体があるじゃないか」と躊躇する夫と無言で聞き入る息子。番組の締めくくりに登場した某宗教学者もどきの人が「少子高齢化



で後継者がいなくなる。お墓がどんどん無縁墓になる時代。今後ますます増えるでしょうね」と紋切り型のコメントをしてエンディング(終了)。

「葬式、法事に意味を見出せない」という考えの人がいること自体、残念なことですし、そう言われるような僧侶や寺のあり方を改善しなければならぬのは当然です。だが、それは厳しく言えば「人間の形をしているが、人間とは言えない」気の毒な人生観だと言わねばなりません。「なんでも知ってるつもり」の宗教学者も同罪です。人間とは、時間・空間・仲間を共有する存在ですが、それらの間柄(縁)を断ち切っていけば、「無間地獄」の闇の世界そのものです。かつて、ヒマラヤ山中で人里を離れて狼と一緒に生育した女の子は、人間の世界に引き戻されても、四つんばいで歩き、血の滴るような生肉を口から食べ、夜になると狼のような唸り声を上げる。ほとんど人間の言葉も話せないままに亡くなったと言われます。つまり、人間の親から生まれても人間らしい育てを受けなければ、四つ足の動

物とほとんど変わりないまま終わって行くのです。先日、父親を亡くした息子さんが九州に住む叔母さんとともに来訪されました。葬儀屋さんの紹介で葬儀は済ませましたが、このままではいけないと叔母さんに相談。その叔母さんは九州のお寺の(仏婦などの)役員を務めるような方で、その住職さんに相談のうえで私どもの寺を訪ねることになった、とのことで、遠く離れた四日市で仏縁ができたことを安心して下さいました。仏縁に遇うことが「人間らしい人生」の根本であります。

写真アラカルト；元旦会の風景より



☆行事ご案内☆

☆2月の門信徒会例会

2月15日(日)夜7時半

- ① 「如月の華」；九条武子さまの紹介
- ② 親鸞聖人の「和讃」に親しむ；あなたの好きな和讃は？
ただ読んでいただけで見過ごしているご和讃の心を！

◇キッズサンガ 2/7(土)午後4時より。お経、ゲーム等
鐘つきは毎夕5時、年中無休、お友達を誘って下さい！

◇三重組コーラス西勝寺様で、2/19(木)午後1時半

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年6か月で16万3千訪問、一日平均100程、コメント、悩み相談、大歓迎！即返信します。

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日(日)午後
ご法要までいよいよ1年4か月、皆様のご協力よろしく！

◇お稚児さん募集開始！参加費5千円、詳細お申込みは寺まで
生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい！

◇三重組観劇ツアー 1月28日午後、中日劇場、九条武子物語
『如月の華』前進座、参加者には後日詳細連絡

◇新納骨堂後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇予告：『春季永代経』3月14日(土)午後、夜、15日(日)
午後。尚お経開きは14日(土)午前10時半、

坊守スケッチ

幸せな夫婦の形

世間には様々な夫婦の形がある。かつては夫が外で稼ぎ、妻が家を守って養ってもらうのが当たり前だった。今は女性の社会進出が普通になり、その逆もある。理想的な夫婦像を推奨するものでもなく、当人同士がよければ、とやかく干渉するものでもない。

故信楽峻磨先生(元龍大学長)の遺稿法語集に家庭円満の秘訣、夫婦の幸せの基本原則が紹介されていた。

「夫婦は足して10になるような二つの数字。例えば2と8とか、5と5のように。夫婦仲は足し算や引き算を繰り返して、時にはマイナスになる場合もある。しかし二人が仲良く協力し合って掛け算をすることが大事。その場合、どんな組み合わせよりも、夫が5で妻が5を掛け合わせた答えの25が最大値!二人が平等に同じだけ力を出し合うのが、一番幸せな夫婦の形」

現代の若い夫婦は、親世代が世話を焼くまでもなく、家事や子育てを分担している。時には親世代も登場してイクジイ・イクバアが協力する。閉鎖的で狭い価値観だけで家庭生活を送るよりも、経験豊かな親世代のアドバイスや地域の協力があれば、子育てにもいい影響を及ぼす。たとえどんな間柄でもファイフティ・ファイフティの関係で協力し合うのがベストだと合点した。



また信楽先生は自分より3年先に奥様をお浄土に送られた。その法話で

「私と妻の関係は、あたかも針と糸みたいな仲。私は思いのままに運針を進めてきたが、妻は私の針の後を強い糸で縫い上げてくれた。硬い布もあり、何枚も重なった布もあつたが、きつちりと縫い上げてくれた。今もその縫い目の跡が鮮やかに残っている。私の学問と人生は、妻との二人三脚で築き上げたものだ。また来世も夫婦になろうねと誓い合った」と語られた。

私達夫婦も信楽先生ご夫妻をお手本にして、協力して寺報やブログの情報発信の活動を継続したいと思う。

☆坊守の素敵なものに出会った!

今回は詩人の相田みつを作『いのちの根』という詩を紹介

涙をこらえて 悲しみに堪える時
愚痴を言わずに 苦しみに堪える時
言い訳をしないで 黙って批判に堪える時
怒りを抑えて じっと屈辱に堪える時

あなたの目の色が深くなり
いのちの根が深くなる

お稚児さん大募集!

平成28年5月15日親鸞聖人750回法要(1年4か月後)の御稚児さん大募集中!参加費5千円。

☆若院夫婦の『育自な日記』その4

長女は順調に成長し、間もなく満3ヶ月。だんだんと首がしっかりしてきたので、そのうちに据わって抱っこしやすくなるでしょう。赤ちゃんの成長はものすごいスピード!毎日毎日、変化していきます。例えば昨日作った顔の引っ掻き傷。今日はかさぶたになって完治している。初めて自分の握りこぶしをじっと眺めている。私達は小さな発見に幸せな気持ちになり、ますます我が子を可愛く思えます。

そして、自分も幼い頃、両親や祖父母から同じように見守られながら育ててきたのだらうと思いを馳せます。勿論、誰しも赤ちゃんの頃の記憶など無いのですが、無償の愛情を受けていたに違いありません。赤ちゃんにとって絶対に安心、安全な場所は両親の腕の中です。自分が両親から受け取った愛情を今は我が子にたっぷり与える番になったようです。「子を持つて知る親の恩」親とは本当に有り難い存在だと気付かされる毎日です。(J&Y)



Eさんのいいもの紹介

☆雪だるま 目鼻をもらいし 方を
向く(浅井栞条)

※阿弥陀様も合掌するあなたの方を
向いていらっしやいますね。(坊守)

「平成27年度善正寺主なる年間行事」

- 3/14(土) 15(日) 『春季永代経』(稲葉芳道師・奈良・吉野郡)
- 5/31(日) 午前・総会、午後『公開法座』(高沢正文師・奈良・宇陀市)
- 8/22(土) 23(日) 『秋季永代経』(足利孝之師・尼崎)
- 9/20(日) 午前・午後小杉町仏教会『追悼法要』(朝枝暁範師・広島)
- 11/2(月) 午後・夜3(火祝) 午前『報恩講』(藤大慶師・綾部市)
- 11/23(祝) 午前『秋勧進』
- 12/5(土) 夜『お内仏報恩講』

※毎月の例会は原則として第3日曜日の夜7時半より

カンパありがとう

澤田美智江様、片山理兵衛様、閑崎敦子様、山中つや子様、伴野節子様、正親市子様、本田和子様、松岡愛子様、OT様、他匿名様よりお志、切手等を頂戴しました。

お悔やみ申し上げます

★山下達幸様(73歳)・12月24日

合掌

☆編集子より ☆

「善正寺だより」二五四号をお届けします。◇寒い冬を皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。◇テロ事件が世界各地で頻発、お正月気分を吹き飛ばすような衝撃の新年。◇だが、憎悪の感情だけで人生を終わっては空しい。◇「寒いねと話しかければ寒いね」とこたえる人のいる有難さの世界もある。ご縁の有難さに触れたいですね。合掌

今年頂戴した年賀状の中に、今回限りで辞退する方が少数
ありました。理由は高齢になり、ペンを持ってないからとか、施設に
入居したからというものの、年賀状だけのおつき合いでしたか、こ
縁がフツと切れてしまうのかと思つたと、寂しくてたまりません。
私も高齢になつたら同じことをするかもしれないので、仕方ないと
諦めます。しかし心を打つ年賀状もありました。差出人は北
海道のHさん。H人によつて法は伝わり、法によつて人は育つてらる
という見出しで始まり、次のエピソードが紹介されていました。「英
教修で知り合つた法友が往生されました。二十代の息子さん
が葬儀の挨拶で「父は京都の〇本山で全国から集まつた
お念仏の同朋と出遇えた喜びを語ってくれました。父の死
後、今度には僕とお付き合ひ下さい」。葬儀に参列した仲
間は、一人息子さんの立派な挨拶とお念仏の心がしつかりと
相続されていることに感激！法友を失つた寂しさ以上の
新たなご縁を結んで下さつた有難さ、お慈悲の温もり
を感じるご縁でした。とかく死んだら仕舞、一代限りの
ご縁、その場限りのご縁を終わる現代にあつて、次の世代
に仏法の相続第一とされたとき、お父様のお尊きに頭
か下がります。善正寺だより「や」住職と坊守のつれづれ
日記」のブログは、私達から一方的に送る片思いのラブレ
ターです。読んで下さるだけでも有難たいのですが、次
の世代にもしつかり伝わるように精進します。今年も
よろしくご愛読下さいませ。

合掌

平成二十七年二月

善正寺坊守拝